

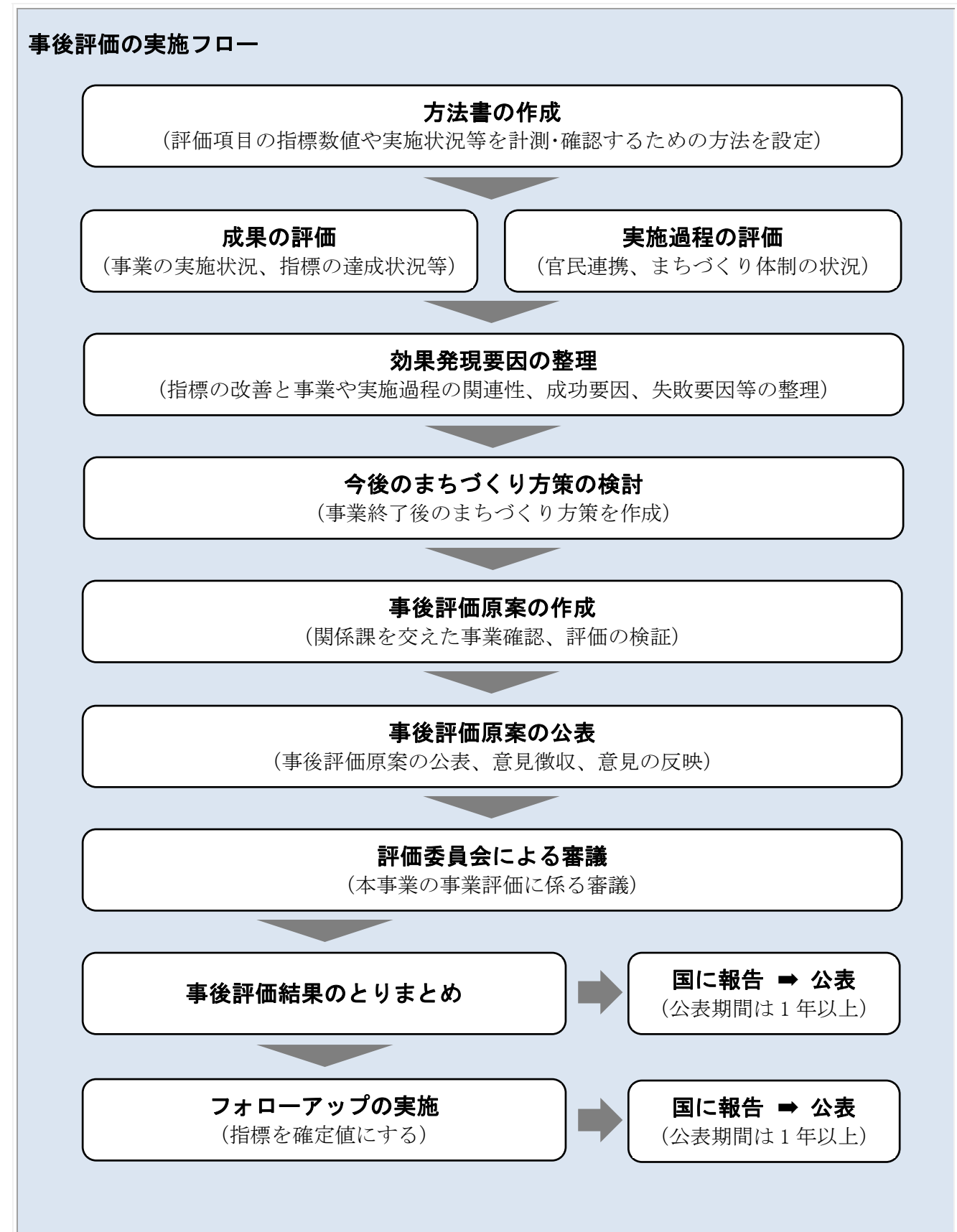
府中地区都市再生整備計画 事後評価資料

1. 事後評価制度の概要	P 1
2. 都市再生整備計画の概要	P 2
3. 成果の評価（数値目標の達成状況の整理）	P 5
4. 実施過程の評価	P 9
5. 効果発現要因の整理	P 10
6. 今後のまちづくり方策の検討	P 11
7. フォローアップ計画	P 11

令和8年3月時点
府中市都市デザイン課 都市計画係

1. 事後評価制度の概要

<p>事後評価の位置づけ</p>	<p>事後評価はPDCAサイクルによる事業評価制度の一環として実施されるもので、その後のまちづくりに活かすための作業。</p> <p>・まちづくりの課題 → 課題は解決されたか？ ・まちづくりの目標 → 目標は達成できたか？ ・目標を定量化する指標・数値目標 → 計画どおりにできたか？ ・目標を達成するために実施する事業 → 改善すべき点はあるか？ ・効果持続のために何をするか？</p> <p>改善策の実施 まちづくりの継続 次期計画へ反映 Act</p> <p>◆まちづくりの効果を事業後も持続させる ◆成功体験、失敗経験を次のまちづくりの教訓に</p>
<p>事後評価の目的</p>	<p>事業がもたらした成果等を客観的に診断して、今後のまちづくりを適正な方向に導くこと、及び事業の成果を住民にわかりやすく説明することを目的とする。</p>
<p>事後評価の内容</p>	<p>① まちづくりの目標の達成状況等の確認 まちづくりの目標の達成状況、および実施過程の検証を行う。</p> <p>② 今後のまちづくり方策の検討 まちづくりの目標の達成状況を踏まえ、事業効果の発現要因を整理し、今後のまちづくり方策を検討する。</p> <p>③ 事後評価のチェック 事後評価の透明性・合理性・客観性を担保するために、評価結果を市民に公表し、意見を適切に反映すると共に、学識経験者を含む第三者で構成される「評価委員会」を開催し、その審議を経る。</p>
<p>評価委員会の目的</p>	<p>① 事後評価等が適切に遂行されているかの確認と、意見を頂く。 ② 今後のまちづくり方策等について意見を頂く。</p>



2. 都市再生整備計画の概要

事業概要：整備した都市機能施設に関連する駐車場、広場、公園等の適切な整備・配置による拠点機能の強化、これら施設への道路空間の整備によるネットワーク形成を行い、中心市街地のさらなる活気、賑わいを促進する。

従前の課題

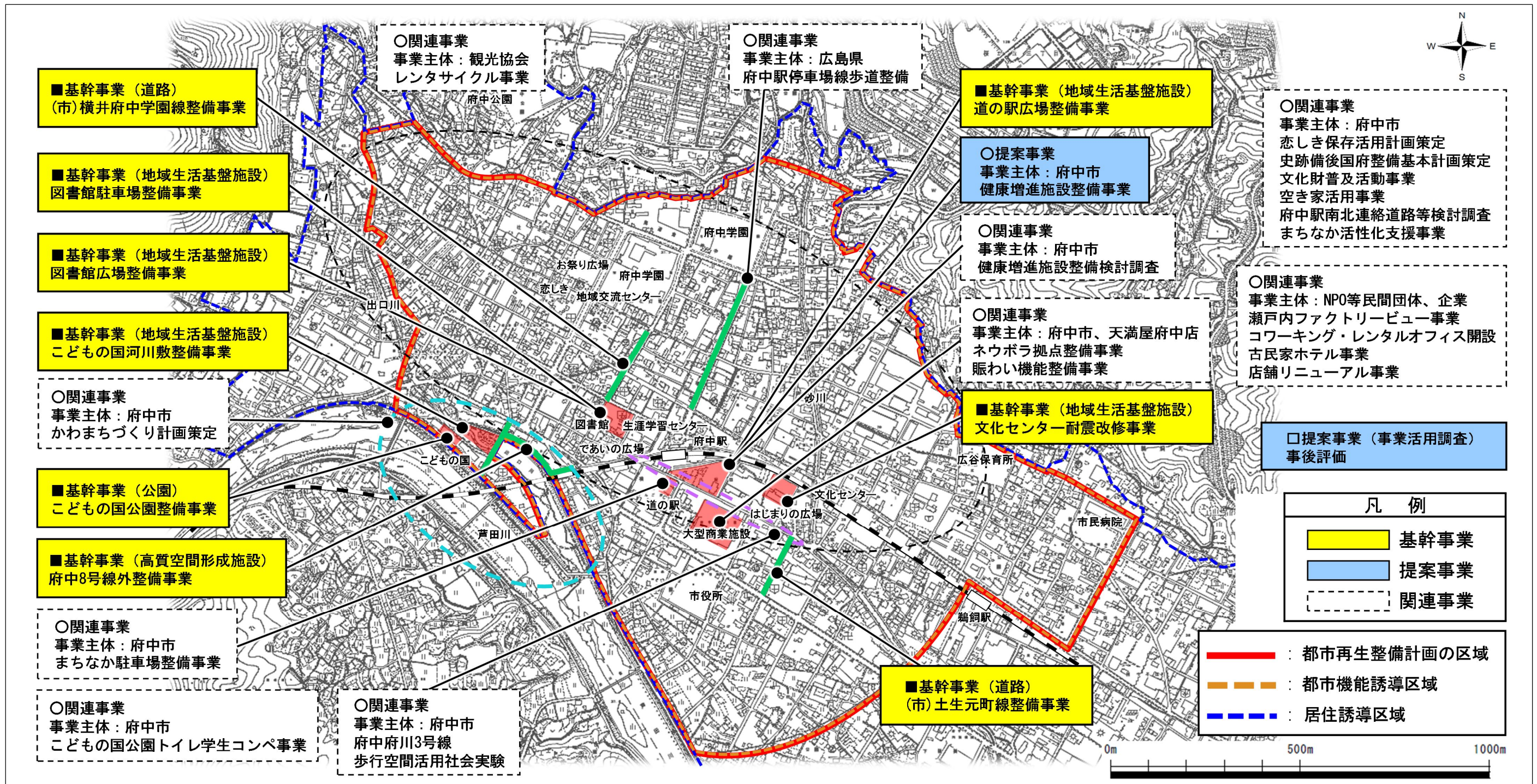
- ・生活環境の更なる向上
- ・人々の交流・活動の場の創出
- ・地区内の周遊性の向上

目標

- 【多様な世代にとって、安心・快適な生活環境の充実】
- 【市民や来訪者が交流・活動できる、アクティブ空間の創出】
- 【周遊と賑わいを生む、質の高い道路空間の確保】

目標を定量化する指標

- | | | |
|-----|-----------------------|-------|
| 指標1 | 通りの歩行者数（休日） | (人/日) |
| 指標2 | 通りの歩行者数（平日） | (人/日) |
| 指標3 | ぐるっとバス（市内循環バス）の平均利用者数 | (人/日) |
| 指標4 | 道の駅来場者数 | (人/年) |
| 指標5 | 拠点施設（賑わい施設）利用者数 | (人/年) |



事業種別	事業名	最終計画（第5回変更）				完成状況		
		事業期間		事業費 (百万円)	事業内容	完成	完成 見込み	備考
		開始年度	終了年度					
基幹事業	道路	(市)横井府中学園線整備事業	R3	R6	79.5	側溝整備、歩車道セミフラット化 L=225m、W=11m	●	
		(市)土生元町線整備事業	R3	R5	55.4	側溝整備、歩車道セミフラット化 L=175m、W=11m	●	
	公園	こどもの国公園整備事業	R3	R4	235.0	植栽、遊具、シェルター、ベンチ、 パーゴラ、トイレ整備 A=2,600㎡	●	
	地域生活基盤施設	こどもの国河川敷整備事業	R5	R7	72.5	芝、スポーツ広場、多目的スペース、 親水エリア、遊歩道整備 A=4,300㎡	●	
		道の駅広場整備事業	R4	R7	164.0	植栽、スポーツ広場、芝、イベントス ペース、ドッグラン等整備 A=1,162㎡	●	
		図書館広場整備事業	R3	R7	156.7	植栽、芝、細園路、サイン、縁台、イ ベントスペース整備 A=960㎡		● 令和8年9月に完成予定
		図書館駐車場整備事業	R3	R7	24.1	AS舗装、区画線、車止め整備 A=450㎡		● 令和8年9月に完成予定
		文化センター耐震改修事業	R5	R7	489.0	耐震改修 A=7,201㎡	●	
		高質空間形成施設	府中8号線外整備事業	R3	R4	79.4	高品質舗装、照明設備 L=490m、W=4m	●
	提案事業	地域創造支援事業	健康増進施設整備事業	R5	R6	869.7		●
事業活用調査		事後評価	R7	R7	3.0		●	令和7年度に実施
関連事業	府中駅停車場線歩道整備、まちなか駐車場整備事業、こどもの国公園トイレ学生コンペ事業、恋しき保存活用計画策定、史跡備後国府整備基本計画策定、文化財普及活動事業、健康増進施設整備検討調査、空き家活用事業、府中駅南北連絡道路等検討調査、まちなか活性化支援事業、府中府川3号線歩行空間活用社会実験、瀬戸内ファクトリーレビュー事業、店舗リニューアル事業、レンタサイクル事業、ネウボラ拠点整備事業、賑わい機能整備事業						かわまちづくり計画策定、コワーキング・レンタルオフィス開設、古民家ホテル事業は計画期間は未実施	



▲道路／(市)横井府中学園線整備事業



▲道路／(市)土生元町線整備事業



▲地域生活基盤施設／図書館広場整備事業



▲公園／こどもの国公園整備事業



▲地域生活基盤施設／
図書館駐車場整備事業



▲地域生活基盤施設／
文化センター耐震改修事業



▲地域生活基盤施設／こどもの国河川敷整備事業



▲地域創造支援事業/
健康増進施設整備事業



▲高質空間形成施設/
府中8号線外整備事業



▲地域生活基盤施設／道の駅広場整備事業



▲高質空間形成施設／府中8号線外整備事業



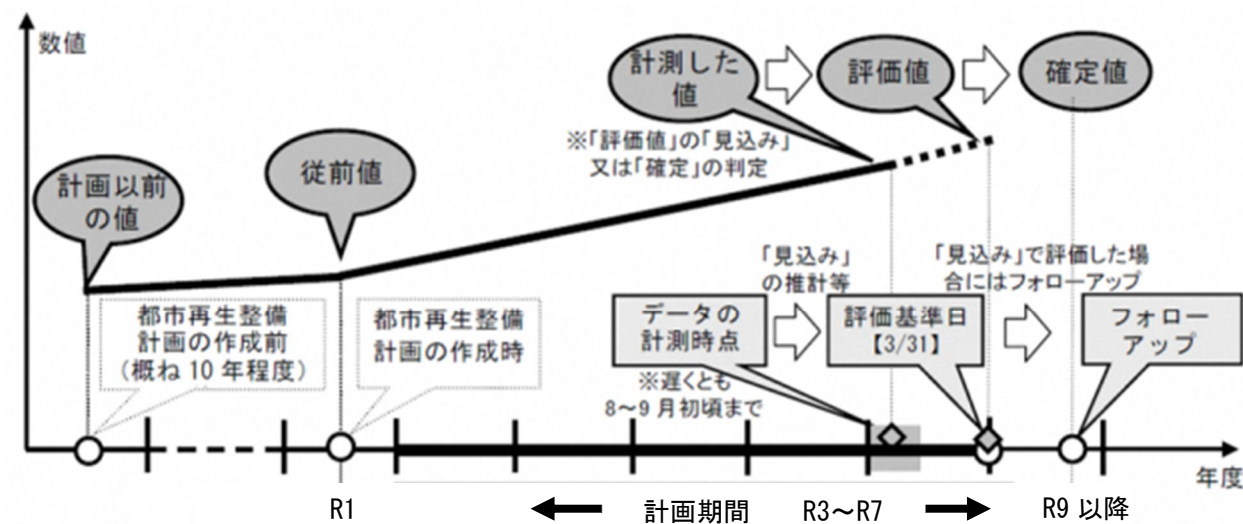
3. 成果の評価（数値目標の達成状況の整理）

指標	単位	従前値 (基準年度)	目標値 (基準年度)	評価値 (評価基準年度)		目標 達成度
				確定	見込み	
指標1 通りの歩行者数（休日）	人/日	1,699 (R1)	2,600 (R7)	2,140 (R7)	確定 ●	△
指標2 通りの歩行者数（平日）	人/日	1,971 (R1)	2,300 (R7)	2,417 (R7)	確定 ●	○
指標3 ぐるっとバス（市内循環バス）の平均利用者数	人/日	93 (R1)	132 (R7)	80 (R7)	見込み ●	×
指標4 道の駅来場者数	人/年	143,024 (R1)	188,000 (R7)	155,824 (R7)	見込み ●	△
指標5 拠点施設（賑わい施設）利用者数	人/年	272,510 (R1)	310,000 (R7)	331,951 (R7)	見込み ●	○

■目標達成度の評価の基準

目標達成度の評価の基準	達成度
評価値が目標値を上回った場合	○
評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合	△
評価値が目標値に達しておらず、かつ近年の傾向よりも改善が見られない場合	×

■評価基準日の考え方



指標1：通りの歩行者数（休日）

従前値 (R1)	目標値 (R7)	評価値/見込み値 (R7)	目標 達成度	1年以内の 達成見込
1,699人/日	2,600人/日	2,140人/日	△	無

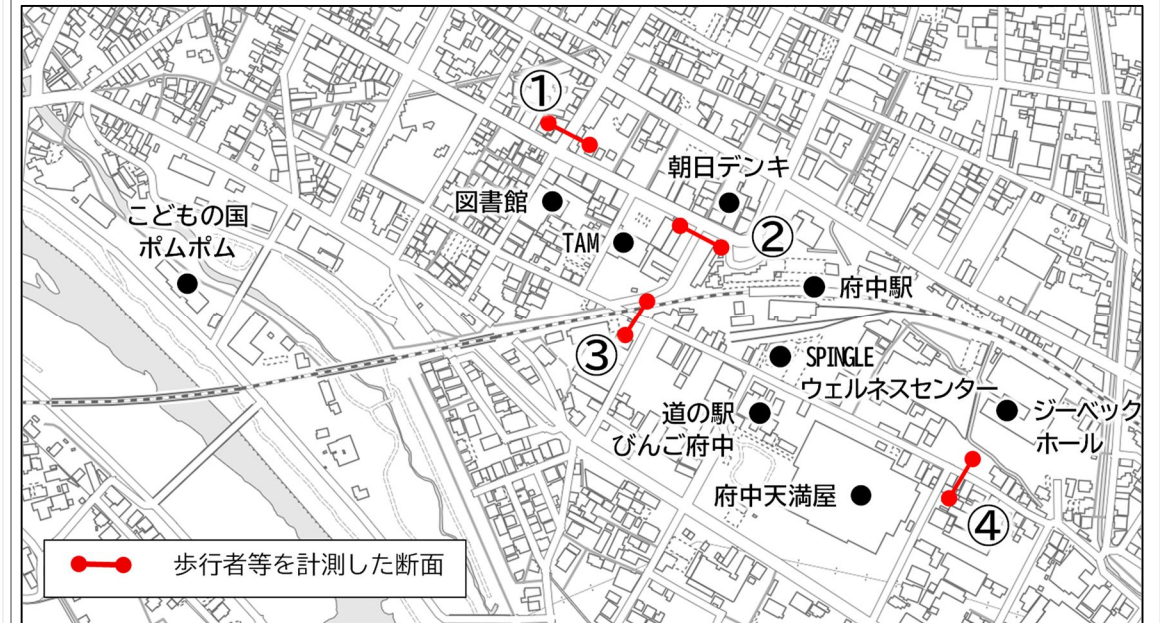
指標2：通りの歩行者数（平日）

従前値 (R1)	目標値 (R7)	評価値/見込み値 (R7)	目標 達成度	1年以内の 達成見込
1,971人/日	2,300人/日	2,417人/日	○	—

指標の定義

府中駅南地区賑わい拠点、地域活動拠点を結ぶ主要な通り（府中駅南通りの4か所）における休日（または平日）の1日あたりの自転車・歩行者数を計測

計測時点では、通りの歩行者数に影響を与える都市再生整備事業が完了しておらず、事業の効果を計測することが困難である。過去の傾向（令和元年～令和6年）から歩行者数を類推し、「評価値（見込み値）」とする。



評価値の求め方

【休日調査】7:00～19:00

従前値：R1.11.3(日) 天候：晴、気温：最高17.5℃ 最低9.1℃(府中)
R1.11.10(日) 天候：晴、気温：最高17.7℃ 最低6.1℃(府中)
評価値：R7.10.19(日) 天候：雨のち曇り(時々小雨)、気温：最高23.6℃ 最低17.4℃(府中)
R7.10.26(日) 天候：雨のち曇り(時々小雨)、気温：最高22.3℃ 最低15.4℃(府中)

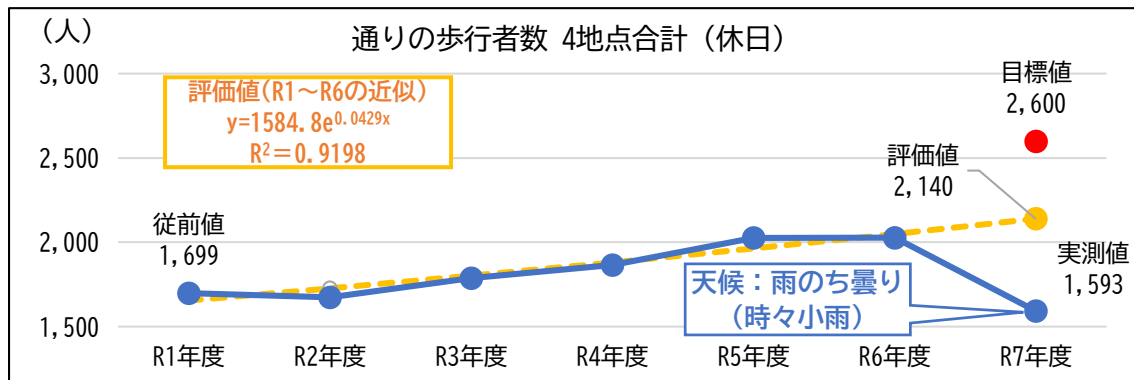
【平日調査】7:00～19:00

従前値：R1.10.31(木) 天候：晴、気温：最高23℃ 最低9.6℃(府中)
R1.11.1(金) 天候：晴、気温：最高23℃ 最低9.6℃(府中)
評価値：R7.10.24(金) 天候：晴、気温：最高23.2℃ 最低9.3℃(府中)

◆指標1：通りの歩行者数（休日）

【目標達成度】

府中駅南地区賑わい拠点、地域活動拠点を結ぶ主要な通り（府中駅南通りの4か所）における休日の1日あたりの自転車・歩行者数を計測した結果、1,593人/日となった。令和7年の計測時点で都市再生整備事業が全て完了していないことを踏まえ、評価値を令和元年～令和6年までの実績値から近似式で推計すると、2,140人/日となり、目標値2,600人/日を下回った。一方で、従前値1,699人/日を上回っていることから改善が見られると判断し、目標達成度は「△」とする。



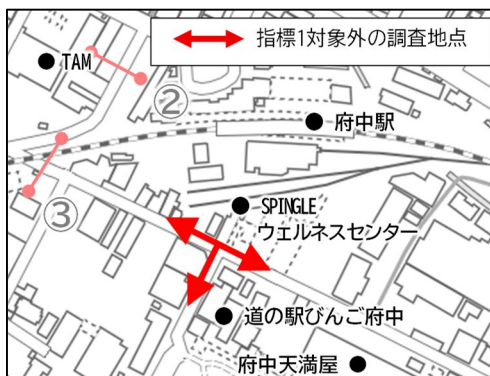
資料：府中市

令和7年の計測時に歩行者数が減少した原因は、調査日の天候が悪く、TAMや図書館といった拠点施設が休館日であったことで、外出控えが発生したことが考えられる。目標未達成の原因は、目標値の設定が過大であったことや、居住人口の減少（都市再生整備計画区域内（府中町・出口町・元町・府川町）の人口は令和元年：7,464人から令和7年：6,506人に減少（減少率は約13%））が考えられる。

目標達成度等に関する検証

調査地点	通りの歩行者数		
	R1年度調査	R7年度調査	増減率
①図書館交差点北側断面	153	121	-20.9%
②朝日デンキ前交差点南側断面	387	327	-15.5%
③府川元町14号線北詰西側断面	732	722	-1.4%
④府川2号線北詰東側断面	427	423	-0.9%
4地点の合計	1,699	1,593	-6.2%

資料：府中市



本指標の対象外である、同日調査した左記調査地点では、歩行者数が令和6年：417人から令和7年：715人に増加した（増加率は約71%）。周辺施設であるSPINGLE ウェルネスセンター（市民プール）やi-coreFUCHUで同日開催されたイベントによる効果も含まれるが、今後もこれら施設と連携することでより周辺の歩行者数増加につながると考えられる。

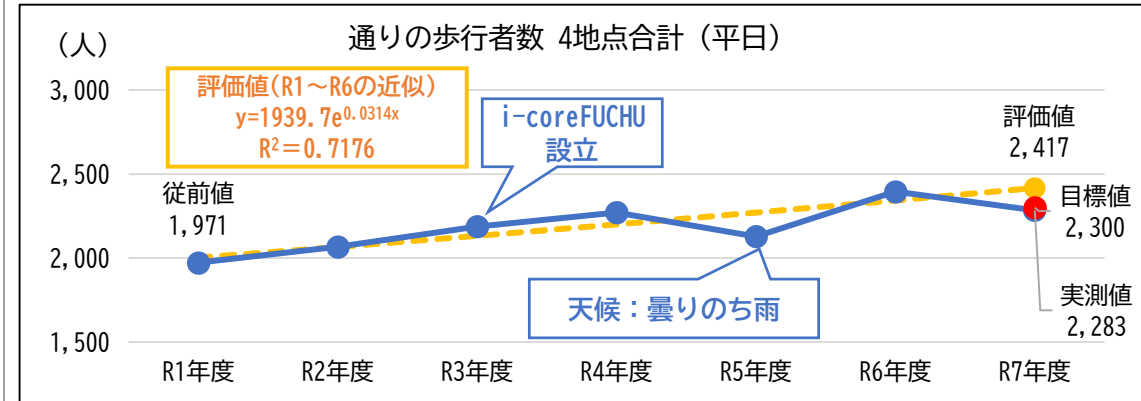
【1年以内の達成見込み】

計測時点である令和7年10月時点で完成していない事業もあり、今後事業効果が歩行者数にも反映されることが予想されるが、効果が広く浸透するには時間がかかるため、1年以内の達成見込みは「無」と判断する。

◆指標2：通りの歩行者数（平日）

【目標達成度】

府中駅南地区賑わい拠点、地域活動拠点を結ぶ主要な通り（府中駅南通りの4か所）における平日の1日あたりの自転車・歩行者数を計測した結果、2,283人/日となった。令和7年の計測時点で都市再生整備事業が全て完了していないことを踏まえ、評価値を令和元年～令和6年までの実績値から近似式で推計すると、2,417人/日となり、目標値2,300人/日を上回ったため目標達成度は「○」とする。



資料：府中市

平日歩行者数は休日同様に増加傾向であり、令和7年度の調査地点別の傾向を見ると、調査地点②③は従前値から増加している。

居住人口の減少下であるが、目標達成した要因はi-coreFUCHUが整備されたことで、平日の放課後に児童生徒や学生が立ち寄りする場所が生まれ、歩行者数増加に寄与したと考えられる。i-coreFUCHUでは、誰でも自由に使うことができるコミュニティスペースを設置し、年末年始には多目的室を中高生を対象とした自習室として無料開放している。

調査地点	通りの歩行者数		
	R1年度調査	R7年度調査	増減率
①図書館交差点北側断面	266	202	-24.1%
②朝日デンキ前交差点南側断面	446	778	74.4%
③府川元町14号線北詰西側断面	817	898	9.9%
④府川2号線北詰東側断面	442	405	-8.4%
4地点の合計	1,971	2,283	15.8%

資料：府中市

i-coreFUCHU



【コミュニティスペース】おしゃべりや食事、勉強にも自由に使えるオープンスペースとして開放



【多目的室】年末年始に多目的室を自習室として開放

出典：i-coreFUCHU HP

出典：i-coreFUCHU Instagram

指標3：ぐるっとバス（市内循環バス）の平均利用者数

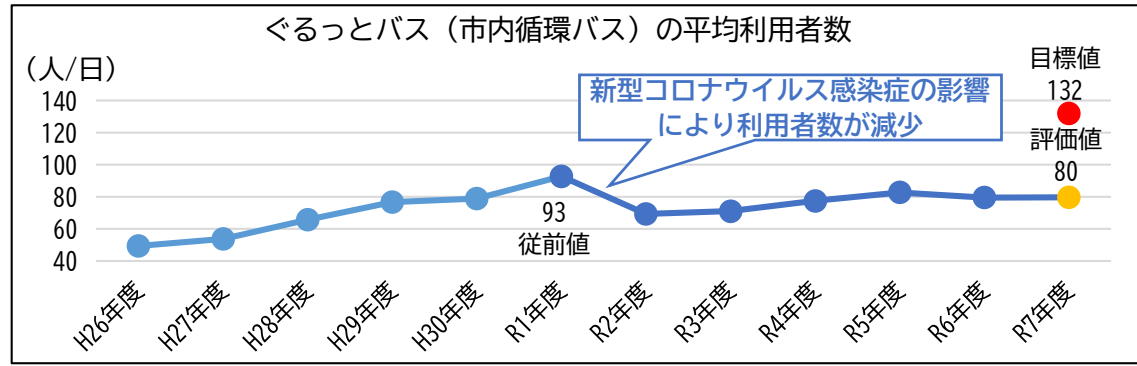
従前値 (R1)	目標値 (R7)	評価値/見込み値 (R7)	目標 達成度	1年以内の 達成見込
93人/日	132人/日	80人/日	×	無

指標の定義	府中ぐるっとバス利用者の1日当たりの平均利用者数により算出
評価値の求め方	令和7年度の利用者を算出するためには、令和7年4月～令和8年3月のデータが必要となるが、計測時期が令和7年11月であるため、12月～翌年3月の利用者数については、令和元年度から令和6年度の実績値(各月平均利用者数)を基に算出し、令和7年度11月までの実績に追加することで、評価値(見込み値)とする。

【目標達成度】

府中ぐるっとバス利用者の1日当たりの平均利用者数を算出した結果、80人/日となり目標値132人/日を下回った。また、従前値93人/日も下回っているため目標達成度は「×」とする。

自家用車利用が依然として多いなかで、平成30年度までは増加傾向だったものの、新型コロナウイルス感染症の影響により令和元年度末から減少し、未だに以前の利用者数まで回復していないと考えられる。



資料：府中市

現在、公共交通の利便性向上のため、令和7年度に府中市地域公共交通活性化協議の承認を経て、令和8年度より運行ルート再編、ダイヤの改正を予定している。

また、令和6年4月より低炭素社会実現に貢献するため、備後圏域では初となる小型EVバス（電気バス）を導入した。



出典：府中市HP

【1年以内の達成見込み】

計測時期である令和7年11月時点で完成していない事業もあり、運行ルート再編等の対策ともあわせて、今後事業効果がぐるっとバス利用者数にも反映されることが予想されるが、新型コロナウイルス感染症流行前には回復するにはまだ時間がかかるため、1年以内の達成見込みは「無」と判断する。

目標達成度等に関する検証

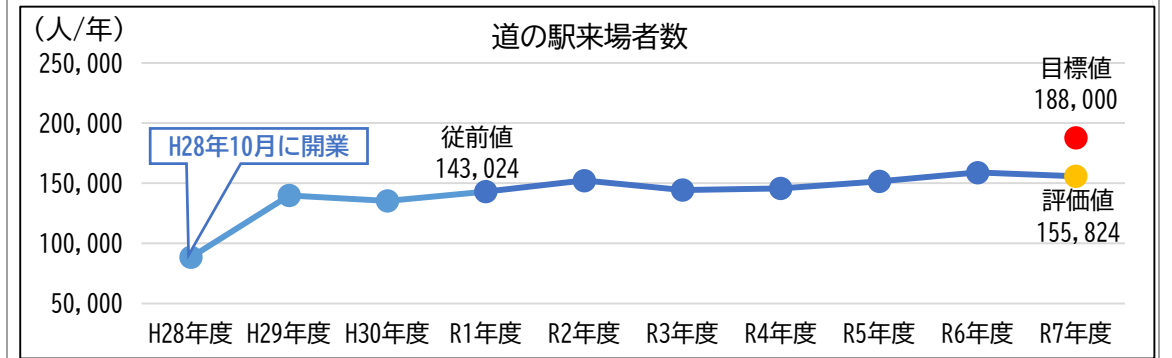
指標4：道の駅来場者数

従前値 (R1)	目標値 (R7)	評価値/見込み値 (R7)	目標 達成度	1年以内の 達成見込
143,024人/年	188,000人/年	155,824人/年	△	無

指標の定義	道の駅「びんご府中」の年間利用者数により算出
評価値の求め方	令和7年度の来場者数を算出するためには、令和7年4月～令和8年3月のデータが必要となるが、計測時期が令和7年10月であるため、11月～翌年3月の来場者数については、令和元年度から令和6年度の実績値(各月平均来場者数)を基に算出し、令和7年度11月までの実績に追加することで、評価値(見込み値)とする

【目標達成度】

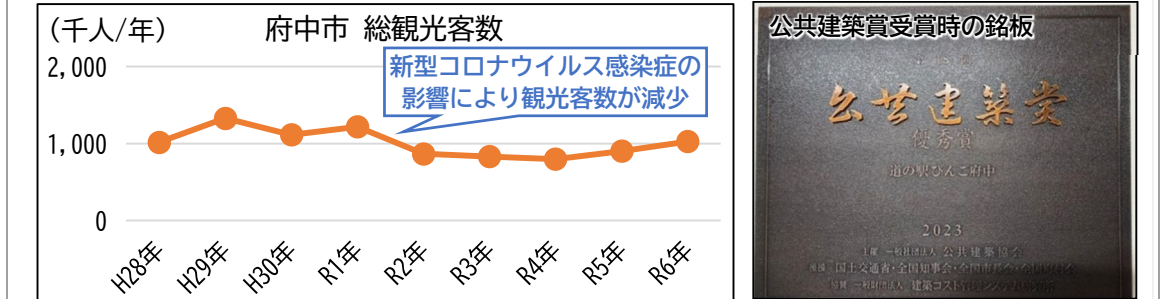
道の駅「びんご府中」の年間利用者数を算出した結果、155,824人/年となり目標値188,000人/年を下回った。一方で、従前値143,024人/年を上回っていることから改善が見られると判断し、目標達成度は「△」とする。



資料：府中市

新型コロナウイルス感染症の影響により令和元年度末に観光客数が減少し、近年は回復傾向にあるものの、目標達成に至るまでの増加がなかったためと考えられる。

一方、本施設は令和5年度に一般社団法人公共建築協会より第18回公共建築賞を受賞した。建築的な面のみならず、中心市街地に立地し新たな歩行動線と交通結節点の創出に関する試みや、観光客だけでなく住民の日常にも配慮している点が評価された。



資料：広島県観光客数の動向

出典：府中市HP

【1年以内の達成見込み】

計測時期である令和7年10月時点で完成していない図書館広場・駐車場整備事業や、令和7年に開業したSPINGLE ウェルネスセンター等の近隣施設整備により、道の駅へ立ち寄りするきっかけが生まれ、今後事業効果が道の駅来場者数にも反映されることが予想される。一方で、効果が広く浸透するには時間がかかるため、1年以内の達成見込みは「無」と判断する。

目標達成度等に関する検証

指標5：拠点施設(賑わい施設)利用者数

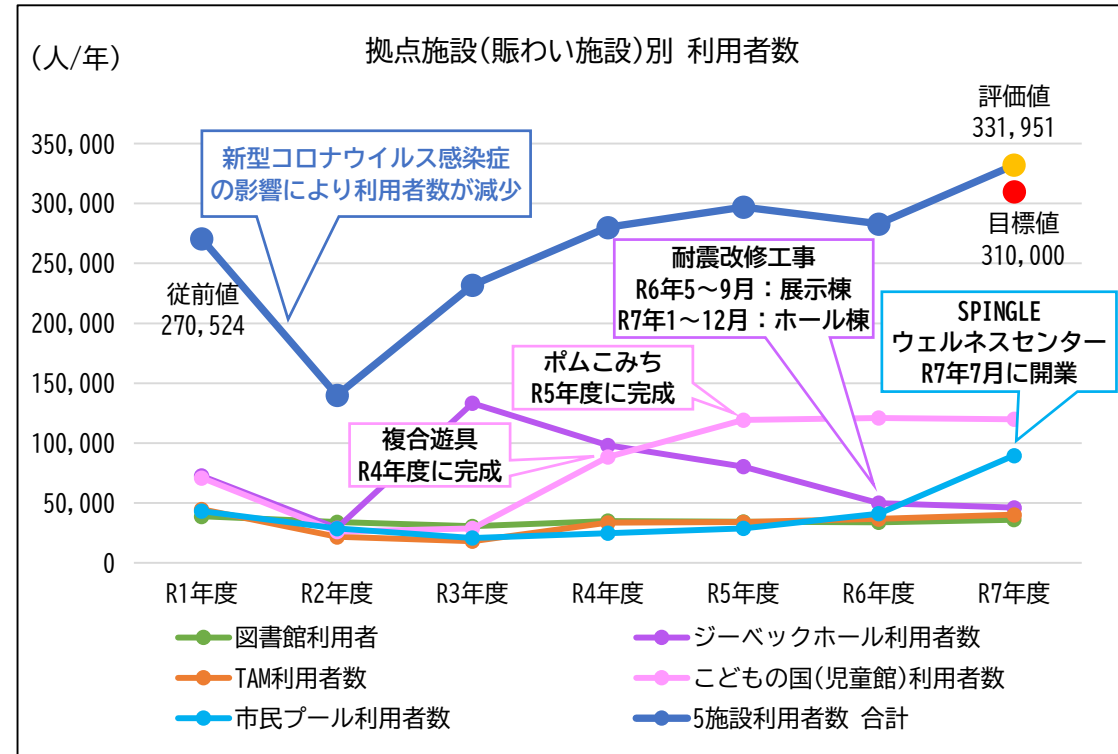
従前値 (R1)	目標値 (R7)	評価値/見込み値 (R7)	目標 達成度	1年以内の 達成見込
272,510人/年	310,000人/年	331,951人/年	○	—

指標の定義
図書館利用者(貸出数)、ジーバックホール(文化センター)利用者数(各部屋貸出履歴からの推計数)、TAM利用者数(延べ利用者数)、こどもの国(児童館)利用者数、市民プール利用者数により算出

評価値の求め方
■図書館利用者数
 令和7年度の利用者を算出するためには、令和7年4月～令和8年3月のデータが必要となるが、計測時期が令和7年10月であるため、令和7年度4月～10月の実績値より1月あたりの平均利用者数を算出し、それを12か月分に換算することで、評価値(見込み値)とする。
■ジーバックホール利用者数、TAM利用者数、こどもの国(児童館)利用者数、市民プール利用者数
 令和7年度の利用者を算出するためには、令和7年4月～令和8年3月のデータが必要となるが、計測時期が令和7年11月であるため、令和7年度4月～11月の実績値より1月あたりの平均利用者数を算出し、それを12か月分に換算することで、評価値(見込み値)とする。

【目標達成度】

拠点施設(賑わい施設)利用者数を算出した結果、331,951人/年となり目標値310,000人/年を上回ったため目標達成度は「○」とする。
 新型コロナウイルス感染症の影響により減少したものの、こどもの国の整備やSPINGLE ウェルネスセンターの開業により、利用者数増加につながったと考えられる。



資料：府中市

目標達成度等に関する検証

定性的な効果発現状況

【賑わい創出、地域の活性化に向けた取組】

●イベント、市民活動の実施

- ・府中まちなか繁盛隊(市民商業団体)

府中まちなか繁盛隊は、府中市内広域で商業活性化活動を展開しており、平成22年の結成当時は8店舗だった加盟店も現在は43事業所まで増え、地元密着型の団体として様々なイベントやセミナー等を実施するなど、市内の賑わいづくりに積極的に取り組んでいる。

■直近のプロジェクト・イベント

開催時期	プロジェクト・イベント
令和6年10月27日	ハッピーハロウィン in 府中 2024
令和7年 2月1～28日	第14回府中まちなかお店ゼミナール(まちゼミ)
令和7年10月26日	ハッピーハロウィン in 府中 2025
令和7年11月 7日	びんご府中ナイトまちゼミ：一夜限りのビューティーフェス
令和8年 2月1～28日	第15回びんご府中まちゼミ

●学校×地域連携の取組

- ・I-project meeting：学生主体のワークショップ

府中市が主催するワークショップ型教育プログラムで、市内の小中高生が自分がやりたいことを考え、話し合いながら形にする力を育てる取組であり、近年では、中心市街地をフィールドとした「i-coreFUCHU」でのイベントや公民館の活用等について取り組まれている。

【移住・定住に繋がる取組】

●空き家の利活用

- ・空き家バンク

空き家を登録・公開し、移住や定住を希望する方の活用に繋げている。

(令和3年～現在までの成約件数：55件)

- ・空き家リバイバルプロジェクト

空き家を交流施設や体験拠点等へ再生することを支援している。

- ・広島型ランドバンク事業

県は、空き家や空き地をまとめて整備・再活用し、市街地の居住性を向上させる取り組みを実施しており、府中市はそのモデル地区に選定されている。

●移住サポート制度(府中市移住応援サイト「ふふふちゅう」より)

- ・お試し住宅

府中市の暮らしを体験しながら移住の検討や伝統産業に触れることが出来る施設が整備され、市の伝統産業である府中家具が備わった住宅で1泊2日から最大14日間の移住体験ができる。

- ・一時預かり

府中市への移住を検討する際、現地調査や住宅物件を見学したい、という時に子どもを預けることができる。

- ・チャレンジファーム広島・上下農場

府中市に在住または移住し、就農する方に対して、農地の貸し出し、ハウス資材費への補助金、生活費の支援などを実施し、サポートしている。

4. 実施過程の評価

持続的なまちづくり体制

NPO 法人府中ノアンテナ

NPO 法人府中ノアンテナは、平成 23 年に設立されて以降、「地域の魅力を一緒にさがし、つくり、とどける」という理念のもと、府中市の地域資源を発掘し、情報発信やネットワークづくりを通じて以下のような地域を活性化する取組を現在まで継続的に実施。また、地域の既存の魅力を当法人の強みであるデザインや企画の力で編集し、市内外の人に発信することで、まちが生まれ変わるきっかけをつくることを目指している。

■主な活動内容

●デザイン・広報制作

- ・web サイトや冊子などのデザイン制作
- ・地域の魅力をわかりやすく伝えるクリエイティブワーク

●体験型ツアー・オープンファクトリー

- ・「つくえ、つくろう。」：ものづくり体験ツアー
- ・「瀬戸内ファクトリービュー」：工場見学イベント

●地域プロジェクトの企画・運営

- ・万博公式プログラム「Co-Design Challenge 2024」採択事業の企画
- ・地元企業と共同でプロダクト開発や体験企画を実施

●地域資源の発掘と情報発信

- ・備後エリアの地域資源を調査し、情報発信
- ・分野横断のネットワーク構築を通じて地域の誇りを醸成

～中心市街地の居住環境整備に向けた活動事例～

本市は中心市街地の子育て世帯の居住環境整備に向けて、子育て世帯に選ばれる居住環境を考え、中心市街地の低未利用ストック（空き家、空き地）を広島型ランドバンク事業を活用した居住環境整備の可能性を探るための子育て世帯対象のワークショップを企画し、当法人が運営する形で連携を図りながら実施した。



出典：府中市

持続的なまちづくり体制

府中市南宮台団地でのワークショップ

南宮台団地の住民を対象に当団地が直面する人口減少、少子高齢化、担い手不足等の課題に向き合い、将来に向けてやるべきことやこれからの団地のまちづくりについてワークショップを実施した。住民ひとりひとりが南宮台団地のこれからを自分事として捉える意識醸成に繋がった。

■ワークショップのスケジュール

第1回令和6年11月16日	「これから」を安心して暮らすための3つの整理
第2回令和6年12月7日	大切な想いを伝える「エンディングノート」
第3回令和7年1月12日	座談会、または、シニアの片付けカードゲーム等
第4回令和7年2月16日	座談会（地域づくりの視点）

官民連携による取組

ひろしま建築学生チャレンジコンペ 2021@びんごふちゅう

こどもの国公園整備の一環として、公衆トイレを新築計画する設計コンペを国内の建築学生を対象に実施し、実際に令和5年3月に最優秀を受賞した作品が完成した。



出典：府中NEWS速報



官民連携による取組

i-coreFUCHU（いこーれふちゅう）

当施設は令和3年の府中天満屋の改修に合わせて、株式会社天満屋ストアから府中市に2階約4,300㎡が無償で寄付され、「賑わい機能整備事業」として整備が進められた。

若者、女性、子育て世代を中心に幅広い世代が憩い、学び、挑戦する中で新しい発想や出会いを創出するというコンセプトのもと、市運営による「i-coreFUCHU」が令和3年7月に設立した。

子育て支援施設、学習スペース、イベント空間、カフェなどが整備され、幅広い世代が過ごせる府中市の新たな交流拠点として市民に利用されている。

機能	内容
交流	芝生広場、イベントスペース、ストリートピアノ
子育て支援	子育てステーションちゅちゅ
学び・仕事	フリースペース（自習、作業等）、Wi-Fi
文化・芸術	ギャラリースペース
飲食	カフェ



出典：i-coreFUCHU HP

5. 効果発現要因の整理

目標と指標の関連性	1.多様な世代にとって、安心・快適な生活環境の充実		2.市民や来訪者が交流・活動できる、アクティブ空間の創出		3.周遊と賑わいを生む、質の高い道路空間の確保		✓	✓	✓	✓	✓			
目標達成度	○:評価値が目標値を上回った場合 △:評価値が目標値に達していないが、近年の傾向より改善している場合 ×:評価値が目標値に達しておらず、近年の傾向より改善が見られない場合		指標1 通りの歩行者数(休日)	指標2 通りの歩行者数(平日)	指標3 ぐるっとバス(市内循環バス)の平均利用者数	指標4 道の駅来場者数	指標5 拠点施設(賑わい施設)利用者数	△	○	×	△	○		
種別	事業名・箇所名	目標未達成への影響度	影響度の考え方	指標改善への貢献度	貢献度の考え方	目標未達成への影響度	影響度の考え方	目標未達成への影響度	影響度の考え方	指標改善への貢献度	貢献度の考え方			
交付対象事業	道路(市)横井府中学園線	完成	×	・拠点施設である図書館の広場・駐車場整備や、図書館までのアクセス道路である横井府中学園線が歩行者計測時に完成しておらず、指標への影響はまだ確認できないため『×』	△	・拠点施設である図書館の広場・駐車場整備や、図書館までのアクセス道路である横井府中学園線が歩行者計測時は未完成であり、今後さらなる歩行者数増加が期待できると考え『△』	×	・拠点施設である図書館の広場・駐車場整備が集計期間に完成しておらず、指標への影響はまだ確認できないため『×』	-	△	・拠点施設である図書館の広場・駐車場整備が集計期間に完成しておらず、指標への影響はまだ確認できないため『×』	△	・拠点施設である図書館の広場・駐車場整備が集計期間に完成しておらず、今後さらなる増加が期待できると考え『△』	
	道路(市)土生元町線	完成	△		○		-		△	○		○		
	公園:こどもの国公園整備事業	完成	△		○		△		△	◎		◎		
	地域生活基盤施設:こどもの国河川敷整備事業	完成	×		△		×		×	△		△		
	地域生活基盤施設:道の駅広場整備事業	完成	△		○		△		△	◎		◎		
	地域生活基盤施設:図書館広場整備事業	完成見込	×		△		×		×	△		△		
	地域生活基盤施設:図書館駐車場整備事業	完成見込	×	・土生元町線など調査地点の周辺における歩道の整備により安全安心な歩行者ネットワークが整備されたことで、指標の改善に貢献したと考え『△』	△	・土生元町線など調査地点の周辺における歩道の整備により安全安心な歩行者ネットワークが整備されたことで、歩行者数増加に間接的に貢献したと考え『○』	×	・府中駅停車場線など歩道の整備により安全安心な歩行者ネットワークが整備されたことで、指標の改善に貢献したと考え『△』	×	△	◎	・「SPINGLE ウェルネスセンター(健康増進施設整備事業)」や「i-coreFUCHU(ネウボラ拠点・賑わい機能整備事業)」が開業したことで、区域内の魅力を高め、道の駅への立ち寄りのきっかけに寄与し、指標の改善に貢献したと考え『△』	△	・拠点施設であるこどもの国内の「大型複合遊具(こどもの国公園整備事業)」や、JR府中駅周辺とこどもの国を結ぶ道「ボムこみち(府中8号線外整備事業)」が完成したことが直接的に貢献したと考え『◎』
	地域生活基盤施設:文化センター耐震改修事業	完成	△		○		△		△	◎		◎		
	高質空間形成施設:府中8号線外整備事業	完成	△		○		△		△	◎		◎		
	地域創造支援事業:健康増進施設整備事業	完成	△		○		△		△	◎		◎		
事業活用調査:事業効果分析調査	完成	-		-		-		-	-		-			
関連	府中駅停車場線歩道整備	完成	△		○		△		-	○		○	・拠点施設である「SPINGLE ウェルネスセンター(健康増進施設整備事業)」が開業したことが直接的に貢献したと考え『◎』	
	まちなか駐車場整備事業	完成	△		○		△		-	○		○		
	こどもの国公園トイレ学生コンペ事業	完成	△		○		△		△	◎		◎		
	恋しき保存活用計画策定	完成	△		○		△		△	○		○		
	史跡備後国府整備基本計画策定	完成	-		-		-		-	-		-		
	文化財普及活動事業	完成	-		-		-		-	-		-		
	健康増進施設整備検討調査	完成	△		○		△		△	○		○		
	空き家活用事業	完成	△		○		△		△	○		○		
	府中駅南北連絡道路等検討調査	完成	△		○		-		-	-		-		
	まちなか活性化支援事業	完成	△		○		△		△	○		○		
	府中府川3号線歩行空間活用社会実験	完成	△		○		-		-	○		○		
	瀬戸内ファクトリービュー事業	完成	△		○		△		△	○		○		
	店舗リニューアル事業	完成	△		○		△		△	○		○		
	レンタサイクル事業	完成	△		○		-		-	○		○		
	ネウボラ拠点整備事業	完成	△		○		△		△	○		○		
賑わい機能整備事業	完成	△		○		△		△	○		○			

指標改善への貢献度(達成度が○の場合)
 ◎ 事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した
 ○ 事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した
 △ 事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった
 - 事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない

目標未達成への影響度(達成度が△×の場合)
 ×× 事業が効果を発揮できず、指標の目標を達成できなかった直接的な原因となった
 × 事業が効果を発揮できず、指標の目標を達成できなかった間接的な原因となった
 △ 目標は達成していないが、指標の改善には貢献した
 - 事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない

総合所見	通りの歩行者数(休日)は、施設等が整備され回復傾向にあったものの、居住人口の減少や未完成事業が原因となって目標未達成となった。目標達成している平日と同様の増加傾向であるため、目標値設定が過大であったことが考えられる。他調査地点では増加がみられるため、今後周辺施設と連携することでより増加につながると考えられる。	通りの歩行者数(平日)は、アクセス道路、拠点施設が整備されたことが主要因となって目標を達成した。休日同様、人口減少や未完成事業があるものの、SPINGLE ウェルネスセンターの開業や、児童生徒や学生等の「i-coreFUCHU」への立ち寄り歩行者数増加に寄与したと考えられる。	ぐるっとバスの平均利用者数は、新型コロナウイルスの影響で大幅に減少し、その後は回復傾向にあるものの、未だ新型コロナウイルス感染症流行前の状況までは回復していないことに加え、依然として自家用車利用者が多く、公共交通の利用にはつながらなかったことが主要因となって目標未達成となった。	道の駅来場者数は、新型コロナウイルスの影響により市の観光客が減少し、道の駅の効果が十分に発揮されなかったことが主要因となって目標未達成となった。	拠点施設利用者数は、こどもの国に大型複合遊具が整備されたことや、SPINGLE ウェルネスセンターの開業により利用者が大幅に増加したことが主要因となって目標を達成した。
今後の方針	歩行者計測時以降に完成するアクセス道路や施設を含め、周辺拠点施設等との連携を強め、区域内の人々の回遊性を高める。	歩行者計測時以降に完成するアクセス道路や施設を含め、周辺拠点施設等との連携を強め、区域内の人々の回遊性を高める。	公共交通の利便性向上のため、随時運行ルートの再編やダイヤの見直し等を行う。	来訪者等のまちなか回遊を促進するため、観光機能の更なる充実や移動環境の強化などを推進する。	今後も中心市街地の拠点として、市民をはじめとする様々な関係者と連携した施設運営やイベントを持続的に実施する。

6. 今後のまちづくり方策の検討

都市再生整備計画の課題	達成状況		継続・改善の基本方針	想定される主な事業
■生活環境の更なる向上	達成されたこと	・「こどもの国」内の複合遊具整備や「SPINGLE ウェルネスセンター」が開業したことで、拠点施設の魅力が向上した。	◆ 拠点施設の利用促進 今後も拠点施設の利用促進に向けて、各種企画や使いやすい施設運営に取り組む。	・拠点施設の利用促進に向けた企画・運営の継続・充実 ・府中市立地適正化計画に基づく施策の推進（公共施設の効率的な維持運用）
	残された課題	・拠点施設である図書館の広場・駐車場整備が途中段階であるため、引き続き整備を進める必要がある。 ・本市内人口は減少し、それに伴い空き家が増加傾向にあることから、引き続き、移住・定住の促進や空き家の利活用に取り組んでいく必要がある。	◆ 図書館広場・駐車場整備の実施 ◆ 空き家の利活用の促進 利活用が可能な空き家について、補助制度の活用や空き家バンク制度の周知、さらには空き家活用・流通に伴うメリットの提示などを通じて、その利活用を積極的に推進していく。 ◆ 移住定住の促進 移住定住への発展の可能性がある関係人口の創出・活性化のための取組を進めていく。	・図書館広場整備事業 ・図書館駐車場整備事業 ・空き家バンク事業 ・移住定住促進事業
	新たな課題	・本市の中心市街地では、空き家に加え、狭小な宅地や狭あい道路が点在しており、不動産価値向上に向けた区画再編が必要である。	◆ 区画再編の促進 空き家や空き地などの未利用ストックについて、隣接地や前面道路と併せて区画再編を行い、土地形状を改善することで、良好な居住環境を整備する。	・広島型ランドバンク事業 ・狭あい道路整備事業
■人々の交流・活動の場の創出	達成されたこと	・NPO 法人府中ノアンテナなどの民間団体によって、イベントの企画や情報発信が行われ、賑わいの向上につながった。 ・「i-coreFUCHU」が整備されたことで、子育て世代を中心に幅広い世代が施設やイベントを通して交流が図られた。	◆ 官民連携による地域の活性化 日常的に参加できるイベント等を開催し、市の内外から訪れた人々が周辺エリアにも立ち寄ることで、相乗的な市内の賑わい創出・活性化を図る。	・施設間や商店街等の往来を促すイベント等の実施
	残された課題	・道の駅来場者数は、コロナ禍以後、徐々に回復しているものの、コロナ禍以前の水準まで戻っていないため、引き続き拠点・観光施設として利用を促す必要がある。 ・商店街等で空き店舗は依然として多く、中心市街地活性化に向けて対策が必要である。	◆ 府中市らしい情報発信 県内外から本市を訪問先として選んでもらうため、本市独自の観光資源の活用、情報発信を実施する。 ◆ 地域活性化に向けた空き店舗等の利活用促進 市内における空き家の活用ニーズを的確に把握し、必要に応じて転用や再活用に向けた支援策の検討を進める。	・インバウンドの呼び込み・観光スポットの連携 ・施設間や商店街等の往来を促すイベント等の実施（再掲） ・施設相互の情報発信 ・道の駅北館チャレンジショップの活用 ・にぎわい広場（道の駅北）の活用 ・空き家バンク事業（再掲）
	新たな課題	・これまで駅南エリアを中心に施設整備を行ってきたが、個々の施設運営だけでなく、各施設の連携や活用を官民一体のエリアマネジメント的取組として行い、賑わいの波及に努める必要がある。	◆ 府中駅を中心としたまちの魅力向上 府中駅の整備を進めるとともに、駅周辺に位置する公共施設の活用促進を図る。	・施設間や商店街等の往来を促すイベント等の実施（再掲） ・「i-coreFUCHU」による貸出スペース（屋内外）予約受付及び周辺エリアのコーディネート支援
■地区内の周遊性の向上	達成されたこと	・拠点施設周辺における歩道改良等により安全安心な歩行空間が整った。 ・拠点施設が整備されたことで来訪者が増加し、回遊を促すきっかけとなった。	◆ 周辺拠点施設との連携強化 図書館やこどもの国、文化センター等の市周辺施設との連携を高める。	・施設間や商店街等の往来を促すイベント等の実施（再掲） ・施設相互の情報発信（再掲）
	残された課題	・府中駅の北側と南側が分断されており、回遊性向上のため、交通結節点として駅機能の強化が必要である。	◆ 府中駅南北の連携強化 一体的な賑わいを創出するため、府中駅周辺の施設整備を実施する。	・府中駅北口周辺の整備
	新たな課題	・バスの利用者数は、コロナ禍以後、徐々に回復しているものの、コロナ禍以前の水準まで戻っておらず、市民の多くが自家用車利用であることが考えられ、区域内の回遊性を促すためにも、公共交通の利用促進に取り組んでいく必要がある。	◆ 公共交通の利用促進 地域での生活に応じた公共交通機関の整備やターゲットに合わせた実効性の高い利用促進策を推進する。	・府中市地域公共交通活性化協議会を主体とした運行ルート・ダイヤ等の変更 ・府中市地域公共交通計画に基づく施策の推進（路線バスのPR、施設利用者に対する運賃割引）

7. フォローアップ計画

評価値が見込み値である
各指標について、右記のとおり
フォローアップを行う。

指標	実施時期	実施方法
指標1「通りの歩行者数（休日）」/指標2「通りの歩行者数（平日）」	令和8年10月	事業の完了後6ヶ月を目途に、従前値と同様の方法で歩行者等通行量調査を実施する。
指標3「ぐるっとバス（市内循環バス）の平均利用者数」	令和9年4月	令和8年度の「府中ぐるっとバス」の平均利用者数を担当課から提供を受け、確定値とする。
指標4「道の駅来場者数」	令和9年4月	令和8年度の道の駅「びんご府中」のレジ通過客数を担当課から提供を受け、確定値とする。
指標5「拠点施設（賑わい施設）利用者数」	令和9年4月	令和8年度の図書館、ジーベックホール、TAM、こどもの国、市民プールの利用者数の合計を担当課から提供を受け、確定値とする。